

都市再生整備計画(第8回変更)

おおだてえきまえ
大館駅前地区

あきた おおだてし
秋田県 大館市

令和7年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークابل推進事業	☐

目標及び計画期間

都道府県名	秋田県	市町村名	大館市	地区名	大館駅前地区	面積	10.11	ha
計画期間	平成29年度～令和5年度	交付期間	平成29年度～令和5年度					

目標
大目標：秋田県の北の玄関口にふさわしい魅力ある大館駅周辺の再興 目標1：市の顔として拠点性の向上を図り、にぎわいを再生する。 目標2：「秋田犬」や「まげわっぱ」等の豊富な地域資源・文化を活かしたまちづくりを展開し、交流人口の拡大を図る。 目標3：交通結節点として、安全で快適な駅前空間を形成し利便性の向上を図る。
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 ・まちなかの公有地や公園等の公的資産を活用し、中心部に不足している機能を誘導することで、利便性の向上や賑わいの創出を図ります。 ・既存公共施設の統廃合・統合・廃止、用途転用等の多様な活用により、まちの賑わいと交流を促進し、利便性の高い拠点施設の確保を検討します。 ・大館駅の交通結節点としての機能向上を図るとともに、周辺に観光や交流の核となる拠点を整備し、賑わいや交流の促進を図ります。 ・大館駅前地区都市再生整備計画による駅周辺の整備として、駅前広場の整備や周辺の電線地中化、秋田犬の里の整備等を進めます。
まちづくりの経緯及び現況
【大館市について】 ・当市は、明治22年の町村制施行により大館町として発足し、以来5回にわたる合併により平成17年6月、比内町、田代町を含めた現在の行政区域となり、人口は県内5位、県北の中核都市として発展してきた。市の主要産業である農林業や鉱工業の衰退によって、地域経済の落ち込みや都市基盤整備の遅れが見られたものの、昭和60年代以降は企業誘致に積極的に取り組み、鉱業技術を活用した資源リサイクル産業をはじめ医療用機器や医薬品などの健康産業はいまや本市を支える重要な産業に発展している。特に、近年は、日本海沿岸東北自動車道の太田ICから小坂JCT間の開通効果により活発な企業の設備投資が行われ、平成25年の開通前後4年間の累計では49社の企業が406億円の設備投資と486人の新規雇用を生み出し、有効求人倍率も1倍を超えてきている。これは高速道路のストック効果によるものであり、国の経済財政諮問会議においても事例紹介されている。そうした中、企業誘致とともに、観光を新たな柱となる産業として位置付け、市全体を観光資源と捉え、歴史・文化を生かしたまちづくりやイベント開催、本市の地域資源を生かした体験型ツーリズムの誘致など、物語のある観光振興による交流人口の拡大を目指している。
【中心市街地について】 ・当市の中心市街地は、市の中心部を流れる長木川を境に南北の商業地で構成され、北側には大館駅やバスターミナルのほか大学や県北最大規模の大型商業店舗が立地し、南側には江戸時代に起源を持つ商店街や市役所及び病院等の公共施設が立地するなど都市規模に見合ったコンパクトなまちとして発展してきた。 ・全国的な社会情勢の低迷やモータリゼーションの進行及び大型商業施設の郊外立地に伴い、大館駅前地区を含む中心市街地の空洞化や都市機能の低下が顕著になっている。 ・現在、中心市街地北側の御成町南地区では土地区画整理事業による都市基盤整備が施行中であるほか、南側の大町城下町地区を中心に歴史的風致維持向上計画の平成28年度末の認定に向けた準備検討が進められており、本事業とあわせて特色ある一体的なまちづくりが展開されつつある。
【大館駅前地区について】 ・当地区は、鉄道やバスターミナルが立地する公共交通の結節点として市民や来訪者の観光・交流拠点を担うべき要衝である。また、平成17年に駅舎東側に南北自由通路を整備しているものの、その後の合築駅舎と駅前広場の整備が進んでおらず、時代の流れとともに商店街は衰退し、空き店舗や空き地が目立つなど活気ある駅前としての魅力に欠け、市民の満足度調査においても改善を望む声が多い。 ・平成21年に100年以上の歴史を持つ小坂鉄道が廃止され、18,000㎡にも及ぶ広大な低未利用地が出現し、平成26年に市へ鉄道跡地が譲渡された。その低未利用地の活用として観光交流施設や広場整備により交流人口の拡大を図るため、本事業と連携する形で県と一体となって協働プログラム「ハチ公と歴史に触れる交流人口拡大プロジェクト」が進められている。
課題
・古いまちなみなど歴史的資源はまちづくりの中で活かされていないだけでなく、徐々に失われている。中心市街地の核となる施設の整備とともに、市民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かしたまちづくりが望まれる。 ・活気ある駅前としての市民満足度も低く、駅舎及び駅前広場の整備と自然環境や歴史的資源などを活かした観光機能の充実を求めている。 ・現在、駅前広場はバスやタクシー等の公共交通動線と一般車動線が交錯し、かつ出入り口が複数で動線が複雑なため、交差点化により交通制御を図り、利用者の安全性を確保し交通結節点としての利便性の向上が必要である。 ・地域資源・文化を中心としたイベント等を充実し、交流人口の拡大が求められている。 ・平成28年8月に地方創生推進交付金の広域連携事業として秋田県と大館市が取り組む「秋田犬」活用による観光地域づくり推進事業が認定され、今後令和2年までの5年間で秋田犬を核とした観光地域づくりを進めることにしている。その中核施設として観光交流センター(秋田犬の里)の早期完成が望まれている。 ・観光庁では観光先進国をめざし、訪日外国人4000万人(2020年オリンピック開催年度)、そして東北では150万人泊を目標としており、広域観光周遊ルート形成及び観光資源の魅力の磨き上げ等推進している。そのため、目標年次である2021年オリンピック開催年次まで地域交流センター(大館駅合築駅舎)の整備が求められている。

将来ビジョン(中長期)

○秋田県都市計画区域マスタープラン(平成25年8月策定)

・大館都市計画区域は北東北3県のほぼ中央に位置する恵まれた立地条件にあり、大館能代空港や日本海沿岸東北自動車道の高速交通ネットワークを活用し、交流と連携を促進する秋田県の北の玄関口としての役割を担っている。伝統的技術を生かした資源リサイクル型産業等が地域の産業を牽引しており、県北部の生活・文化・情報の中枢として地域産業の拠点形成を図り、循環型地域社会に対応した都市づくりを目指す。中心市街地は、大館駅前周辺地区と大町周辺地区で構成されるが、近年その活力低下が懸念されており、都市サービス機能の充実と商業地としての魅力向上に努め、効率的な市街地の形成を目指す。

○第2次新大館市総合計画(平成28年4月策定)及び大館市総合戦略(平成27年12月策定)

・「大館の未来を紡ぐものがたりづくり」を基本理念に、「曲げわっぱ」、「きりたんぽ」、「忠犬ハチ公」、「比内地鶏」や偉大な先人など歴史人文資源を掘り起し、日本版DMO候補法人として登録された地域連携DMO「(一社)秋田犬ツーリズム」と連携しながら、観光地域づくりを推進し、市全体を「物語」のある観光地として地域の魅力の向上と交流人口の拡大、延いては移住・定住人口の拡大を目指す。

・広域観光周遊ルート「日本の奥の院・東北探訪ルート」の外縁部に位置する本市は、北東北の観光の要衝地である弘前市と角館を結ぶ南北軸の要として位置付け、連携と多様性により訪日外国人旅行者を含む観光客の増加を目指す。

・大館駅前地区にある公的不動産や民間の低未利用地の開発を誘導し、中心拠点区域を形成することにより固定資産税の維持を図る。

○都市計画マスタープラン(平成19年7月策定)

・将来都市構造の考え方として大館市の顔としてふさわしい都市機能が集積したコンパクトなまちづくりを進めることを基本理念としており、大館駅前地区についてはJR奥羽本線及び花輪線や秋北バスなど交通結節点としての機能充実と公共空間のバリアフリー化を図り、市の玄関口にふさわしい顔づくりを目指す。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方
・大館地域は、商業や業務機能の充実により、本市の中心的な拠点としての役割を担っています。そのため、大館駅南側周辺～御成町～大町～市役所周辺を中心とした地区に都市基盤の整備、複合的な機能の集積を推進します。また、都市機能誘導区域・居住誘導区域を定め、魅力と賑わいのある都市空間の形成を図るとともに、利便性の高い交通結節点としての機能強化に努めることとします。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方
・人口減少や高齢化の進行、市街地の拡散、厳しい財政状況等により生じるさまざまな都市の課題に対応するため、まちづくりの方針（ターゲット）である「未来を担う若者が主人公となるまちなかの遊休不動産と歴史資源の活用」に基づき、市民が快適に暮らし続けることができる健全な都市の持続を目指します。この実現に向けては、まちなかでの暮らしに必要な機能、まちなかの魅力向上に必要な機能を維持または誘導することが重要であるため、まちづくりの方針（ターゲット）・誘導方針（ストーリー）に基づく将来的な必要性、また、都市の骨格構造に与える影響等を踏まえ、誘導施設を検討します。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
大館駅周辺の歩行者・自転車通行量	人/12時間	大館駅周辺における歩行者・自転車通行量 (地区内における駅アクセス道路2地点の平日と休日の平均断面通行量)	・駅周辺の拠点機能の向上を図ることで、来街者の増加と回遊を促進するものとし、歩行者・自転車通行量を設定する。(目標値は計画達成により従前値の1.2倍を見込む)	617人/12時間	H28	740人/12時間	R5
大館駅周辺のまちづくりに関する満足度	%	市民意識調査における大館駅周辺の利便性に対する満足度 (5段階評価のアンケート調査による平均を%表示)	・駅舎及び駅前広場整備により交通結節点としての利便性の向上や県北の玄関口にふさわしい大館駅の新たな「顔」づくりを推進するものとし、大館駅周辺の利便性に対する満足度を設定する。	41.3%	H28	60.0%	R5
大館駅周辺のイベント回数	回/年	大館駅周辺における年間のイベント回数 (駅前広場や観光交流拠点整備予定地等地区内のイベント回数)	・観光交流づくりとして、整備と比例するようにイベントの開催機運が高まり、さらなる地域のコミュニティの醸成と交流人口が拡大することを旨とし、イベント回数を設定する。 (目標値は計画達成により従前値より5回の増加を見込む)	7回/年	H27	12回/年	R5

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	
整備方針1(大館駅周辺の拠点機能の向上、にぎわいの再生) ・大館駅前は、昭和30年の大火による火災復興で整備して以来60年以上が経過し、駅前広場においては交通結節点としての機能を十分に果たしていない状況から、駅周辺の再興は市民の長年の悲願であり、秋田県の北の玄関口として市の顔にふさわしい駅前空間の整備を行う。 ・駅前広場整備によって交通結節点としての機能向上を図るとともに、駅舎に多目的スペースやイベントホールなどの地域交流センターを合築整備し、地域交流拠点としての機能向上を図り、にぎわいを再生する。	方針に合致する主要な事業 【基幹事業】 高次都市施設:地域交流センター 高質空間形成施設:照明 【提案事業】地域創造支援事業:事後評価アンケート
整備方針2(豊富な地域資源の活用や駅利用者の滞留促進による交流人口の拡大) ・駅舎及び駅前広場の整備にあわせて、観光交流センター「秋田犬の里」を整備し、駅利用者の滞留空間を確保することで、まちの空洞化に歯止めをかける長期的かつ継続的な取り組みのきっかけづくりを行う。 ・秋田犬は国内はもとより海外でも人気の犬種であり、海外におけるGoogle検索数では「富士山」に匹敵する検索数となっており、このキラーコンテンツを有効に活用し、国内外からのインバウンドを誘客する施設として、秋田犬の展示のほか、飼い主である住民と観光客とのふれあい、そして秋田犬と実際に触れ合える機能を併設した観光交流センターを整備する。併せて、災害時の避難場所として施設整備を行い防災力の強化を図る。 ・地元商店街や町内会をはじめとして、多くの団体が多様なイベントや活動を通じて地域交流の場として活用していけるように多目的広場を整備し、観光客との交流人口の拡大に繋げる。また、地域資源や歴史資源を紹介する観光マップを磨き上げ、PR活動を積極的に展開することで地域資源の活用・魅力向上を図る。	【基幹事業】 高次都市施設:観光交流センター 地域生活基盤施設:ハチ公広場、多目的広場、秋田犬ふれあい広場及び駐車場整備、情報板 高質空間形成施設:公衆トイレ、カラー舗装、照明、駐輪場 【提案事業】地域創造支援事業:事後評価アンケート
整備方針3(安全で快適な駅前空間の形成と利便性の向上) ・車両の駅前広場への流入口は1か所であるが、流出口が一般車(タクシーを含む)とバスに分かれていて交通が錯綜しているほか、くい違い交差点となっていることから、駅前広場はロータリー形式とし、くい違い交差の解消を図り、交通安全性を確保する。 ・駅前広場にバスターミナル機能も併設するほか、路線バス・タクシー・自家用車の停車帯を確保するとともに、駅舎内のバリアフリー化を進め、安全で快適な駅前空間の形成と利便性の向上を図る。	【基幹事業】 道路事業:駅前広場、主要地方道大館停車場線、駅舎解体、駅舎移転補償費 高質空間形成施設:歩行者支援施設、駐輪場 【提案事業】地域創造支援事業:事後評価アンケート
その他	
○市民・団体や関連事業と連携したまちづくりについて ・県との協働プログラムである「あきた未来づくりプロジェクト」及び「歴史的風致維持向上計画」(※H28認可)との連携・調整を図りながら、本市の歴史や文化等を生かした一体的なまちづくりによって市街地南北間を人が行き交う流れをつくる。また、本事業の立ち上げにあたり、施設の利活用やイベント等について協議した関係団体との連携・強化を図り、官民協働のまちづくりを目指すものとする。 ※協議団体等:JR、秋北バス、ハイヤー協会、一般社団法人秋田犬ツーリズム、大館市観光協会、大館市北地区町内会連絡協議会、大館市商工会議所、秋田犬保存会、大館駅前振興組合、曲げわっぱ協同組合、大館きりたんぽ協会、NPO大館・小坂鉄道レールバイク、大館市まるごと体験推進協議会など。また、県道(主要地方道大館停車場線)の電線地中化及び融雪歩道の整備がH29年度から事業化されたため、駅前ロータリー歩道にも融雪歩道を整備し連携したまちづくりを行うものとする。 ○事業終了後の継続的なまちづくりについて ・事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向けて中・長期の目標達成を目指し、まちづくり活動を展開する。その推進にあたっては、上記の協議団体等と連携し利活用の検討や改善を行い、継続的なまちづくりを展開していく。 ○交付期間中の計画の管理について ・交付期間中において、各種の事業を円滑に進め目標達成に向けて確実な効果をあげるために、庁内検討組織「あきた未来づくりプロジェクト等調整委員会」を継続的に開催して、事業成果について評価や事業の進め方の改善など進行管理を行う。また、都市再生整備計画書や事業の進捗状況等を市のホームページで公開し、市民からの意見募集を随時行うこととする。	

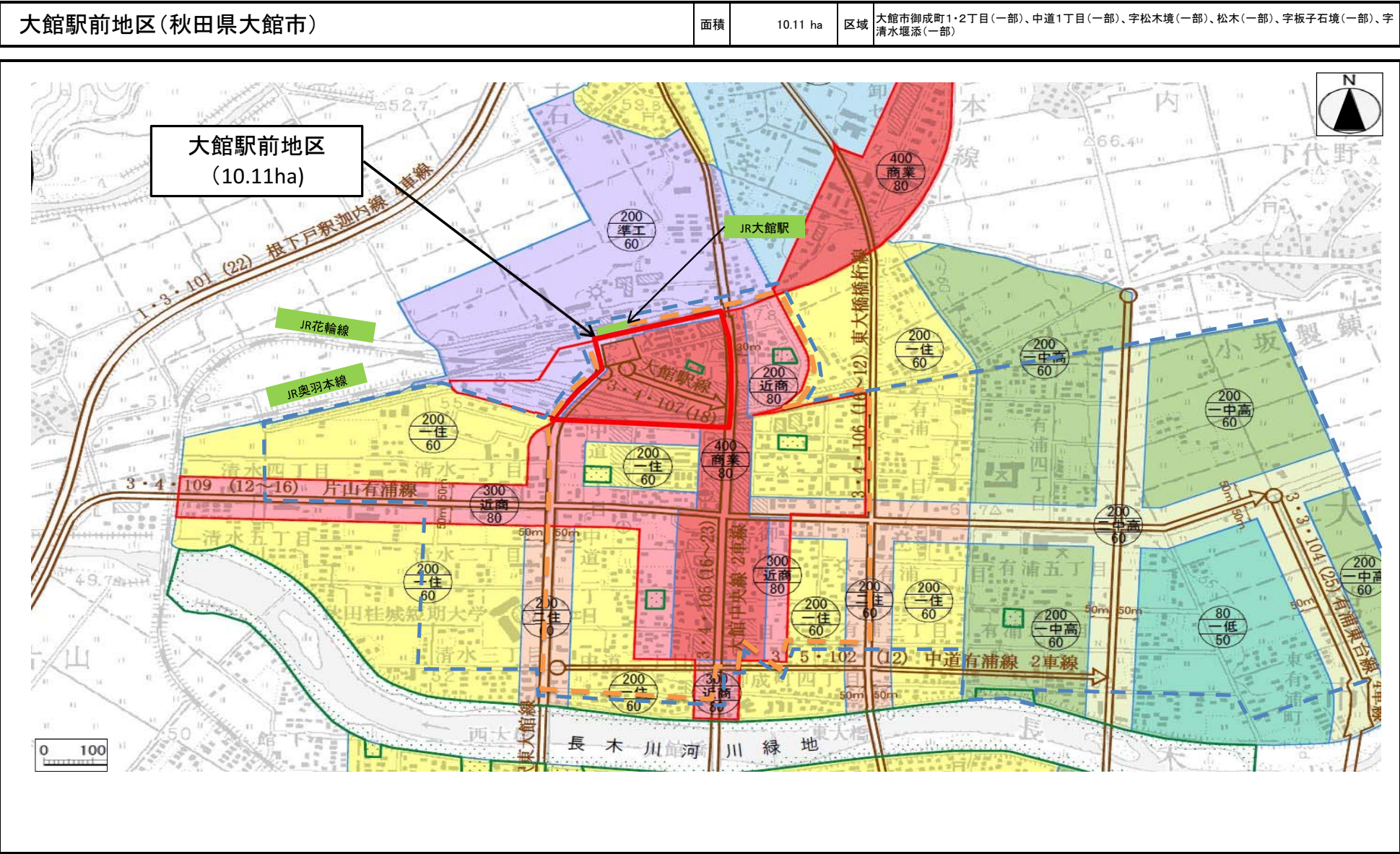
様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

...A

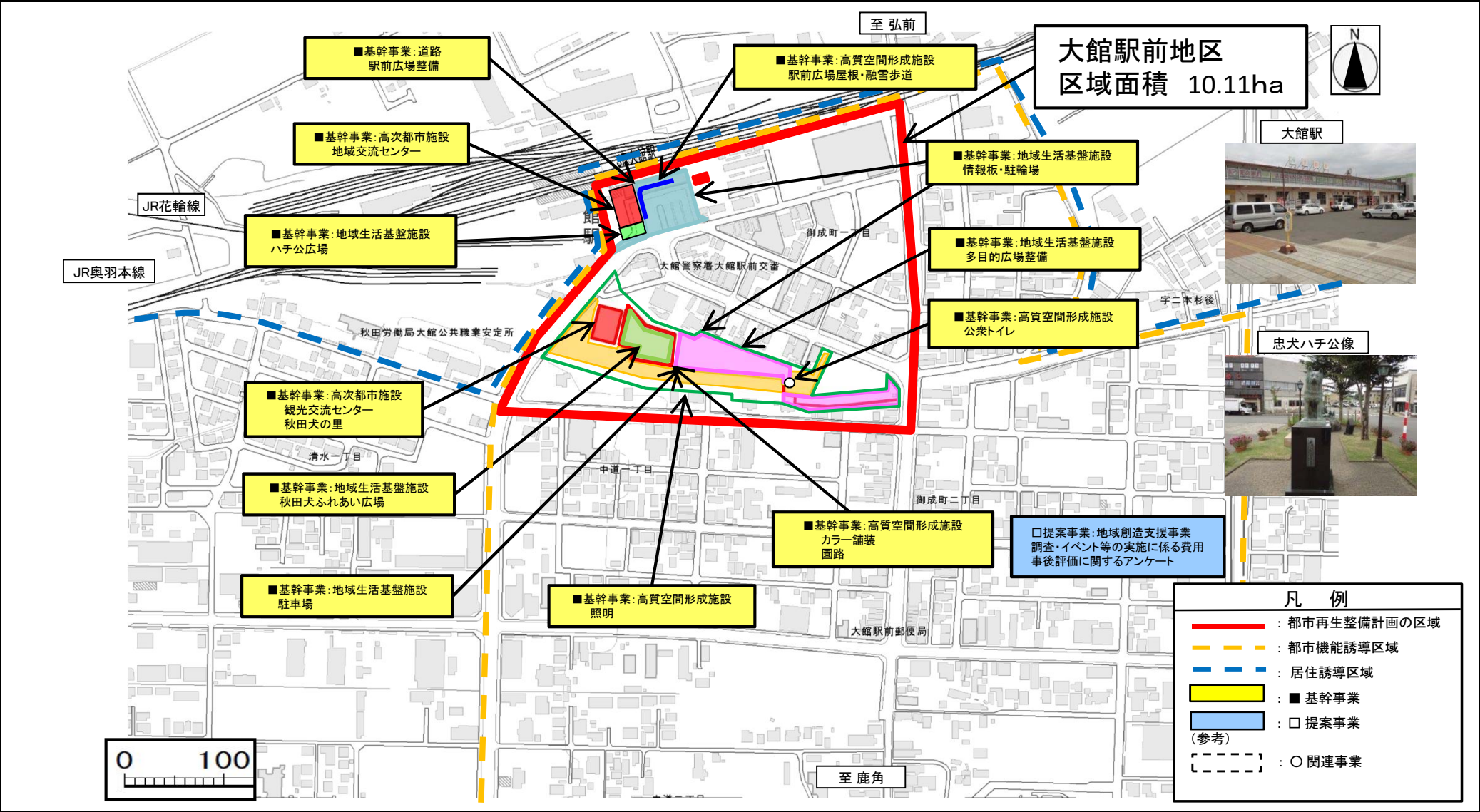
..B

Q0



大館駅前地区(秋田県大館市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	秋田県の北の玄関口にふさわしい魅力ある大館駅周辺の再興	代表的な指標	駅周辺の歩行者・自転車通行量 (人/12時間)	617人/12h (H28年度)	→	740人/12h (R5年度)
			駅周辺のまちづくりに関する満足度 (%)	41.3% (H28年度)	→	60.0% (R5年度)
			駅周辺における年間のイベント回数 (回/年)	7回/年 (H28年度)	→	12回/年 (R5年度)



おおだてえきまえ ち く おおだてし
大館駅前地区（秋田県大館市）
（都市構造再編集集中支援事業）

1. 地区概要

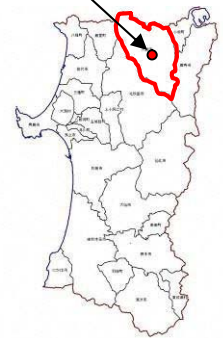
本地区は、昭和30年の大火による火災復興で整備して以来60年が経過し、駅前広場においては交通結節点としての機能も十分に果たしていない状況となっている。さらに、駅前整備が遅れたことにより商店街は衰退し、空き店舗や空き地が目立つなど活気ある駅前としての魅力に欠けている状況である。

本事業により、駅前広場及び駅舎を整備し、交通結節点としての機能向上を図ると同時に、観光交流センター「秋田犬の里」を整備することにより、観光交流拠点としての機能向上を図り、国内外からの誘客を進め、新たなにぎわいと活気を創り出す。

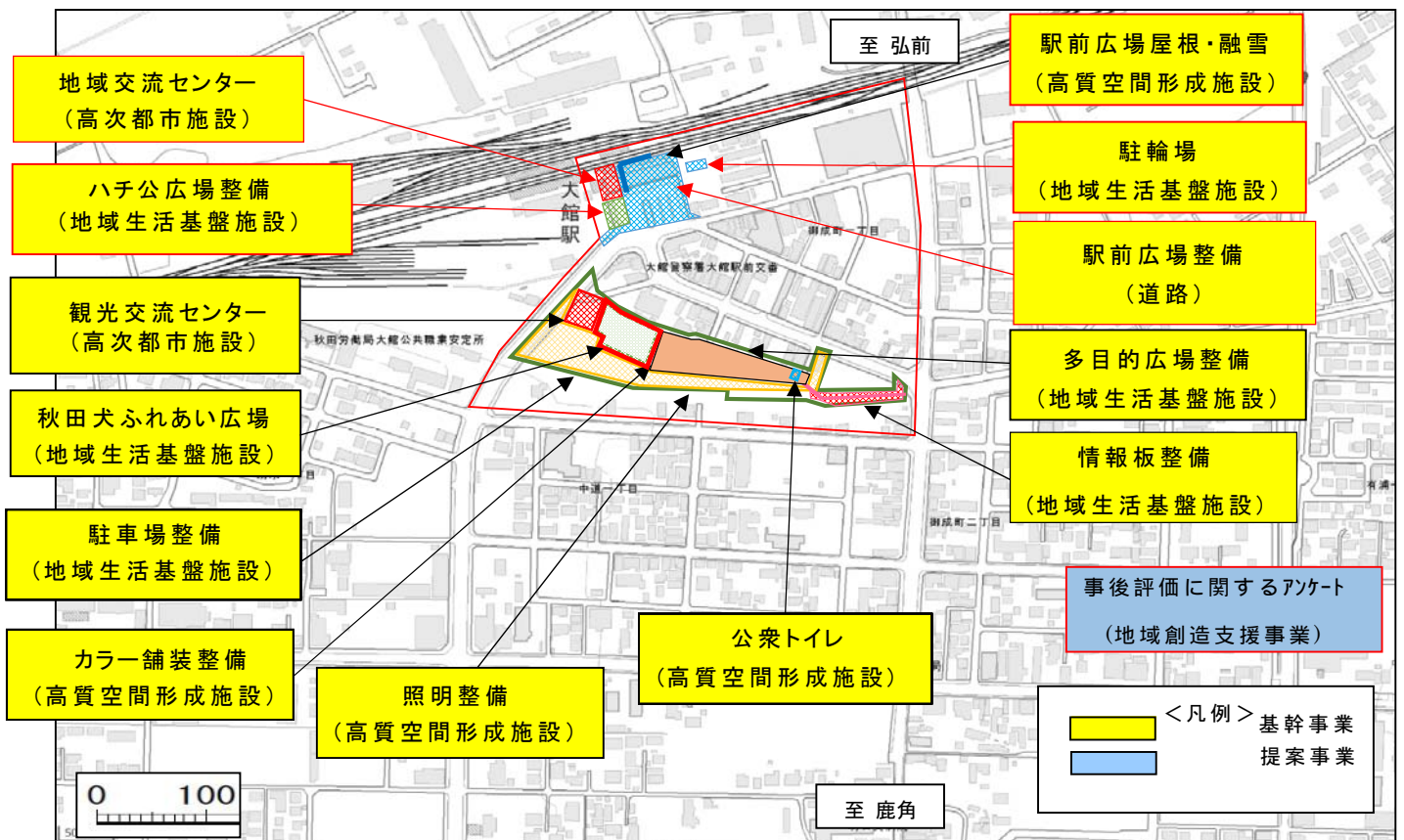
2. 計画内容

所在地：秋田県大館市
事業主体：大館市
面積：10.11ha
交付期間：平成29年度～令和5年度
事業費：全体 2949.3百万円
（国費：1317.5百万円）
事業内容：道路、高次都市施設整備等

当該地区



秋田県



◆事業概要：駅前広場及び駅舎を整備し、交通結節点としての機能向上を図ると同時に、観光交流センター「秋田犬の里」を整備することにより、観光交流拠点としての機能向上を図り、国内外からの誘客を進め、新たな賑わいと活気を創り出すと共に、災害時には避難場所として運用が可能であることから防災力の強化を図る。

◆事業主体:大館市 ◆面積:10.1ha ◆交付期間:平成29年度～令和5年度 ◆立地適正化計画(平成31年3月公表)

◆全体事業費:2949.3百万円 ◆交付対象事業費:2703.7百万円(国費:1317.5百万円) ◆国費率:48.7%(立地適正化計画関連)

